



# 第75期 事業レポート

平成17年11月1日 ▶ 平成18年10月31日

株式会社 **ミロク**

証券コード：7983

# グループ企業理念

“HONESTY”を貫く真摯なモノづくりで、  
ミロクグループは世界に誇れる企業を目指します。

明治26年の創業から1世紀を超える歴史と伝統に培われた「匠の技」と、最新技術の融合が生み出すオンリーワンの商品群。美しさや機能、耐久性、そして安全性などの多様で高度なニーズに応えるため、何事に対しても頑なまでに正直な姿勢でモノづくりに取り組む。ミロクグループは“HONESTY”の精神を貫き、世界への飛翔を目指します。

1

世界最高水準の統づくりで培った技術に一層磨きをかけ、応用・展開を図ることにより、顧客にとってさらに価値ある商品を提供していきます。

2

会社の活動を支えるのは従業員一人ひとりの力であることを心にとめて、従業員にとって働き甲斐があり、持てる力を存分に発揮できる職場を作ります。

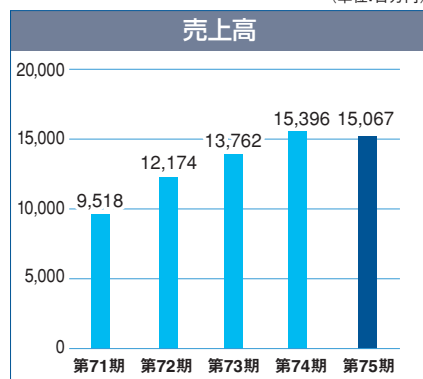
3

法と倫理を遵守し、自然・地域と共生しながら、会社に関わるすべての人や組織にとって価値ある企業であることを目指します。

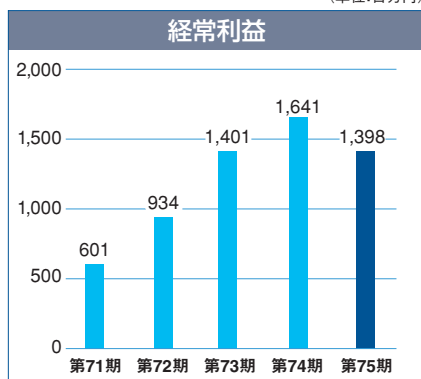
## ハイライト情報 (連結)

## Financial Highlights

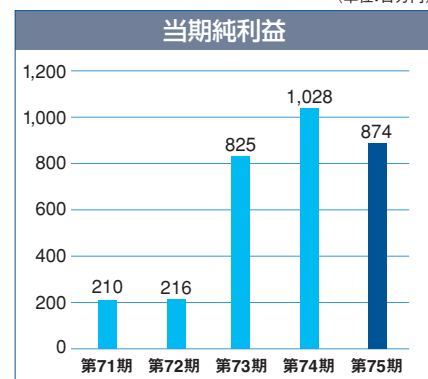
(単位:百万円)



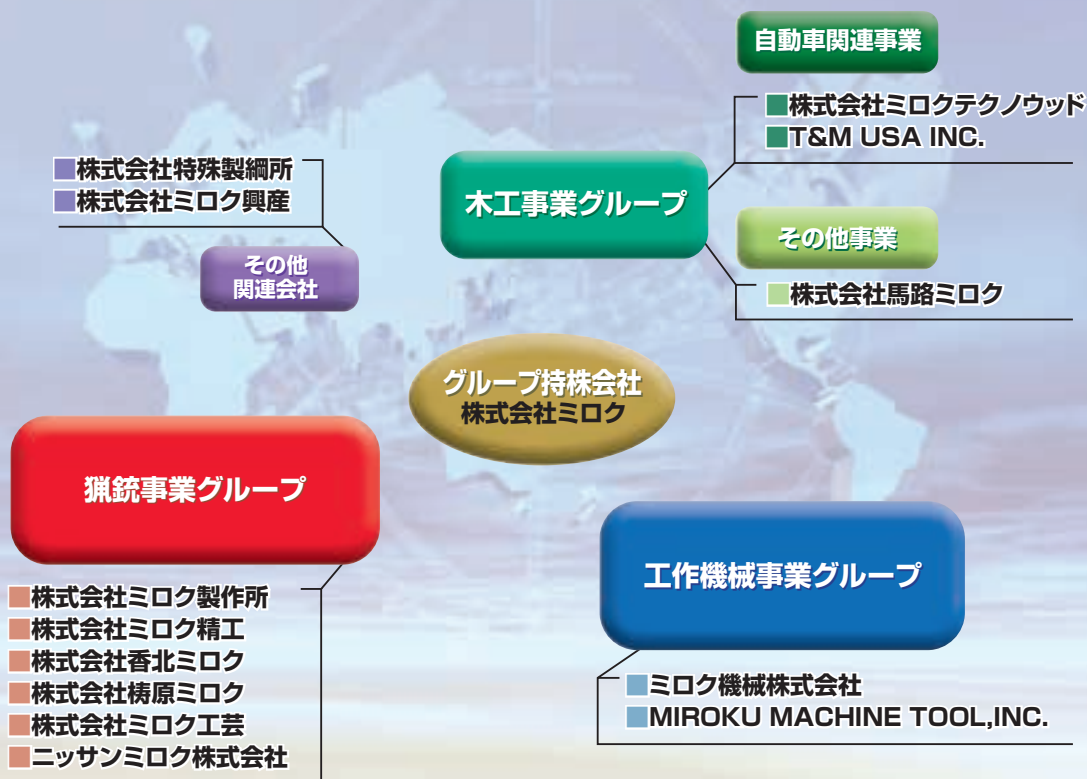
(単位:百万円)



(単位:百万円)



グループ各社がシナジー効果を発揮しながら、  
独創性にあふれる商品・技術の開発に挑んでいます。



世界的に屈指の評価を受けるミロクの猟銃。その製造技術を応用展開して、小径精密深孔加工ができるガンドリルマシンなどの工作機械事業や、削り出し成型による純木製自動車用ステアリングハンドルの量産に世界で初めて成功した自動車関連事業など、グループ企業としての多角化を図っています。中核となる猟銃づくりの技術をさらに深めていくと同時に、グループ各社の持つ固有技術のシナジー（相乗）効果によって独創性あふれる「ミロクオリジナル」の商品・技術を開発していきます。

# トップインタビュー

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第75期（平成17年11月1日から平成18年10月31日まで）の事業レポートをお届けいたします。

今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



平成19年1月  
代表取締役社長 弥勒 美彦

**Q** 当期のミロクグループ全体の事業動向は？

**A** 事業の3本柱の補完関係が有効に作用しました。

当連結会計年度におきましては、原油価格の高騰が大きく影響し、猟銃事業の主力となる米国市場が低迷しました。その一方で、自動車ならびに金型関連業界の好調によって、工作機械事業は大きく伸長。また、高級車へのニーズの高まりに伴って、自動車関連事業も好調に推移しました。

これにより、事業の3本柱の補完関係が有効に作用し、猟銃事業の不振を工作機械事業と自動車関連事業でカバーすることができました。

このような事業環境の中で、グループ各社は生産効率の向上を図るなど、原価低減に積極的に取り組んでま

いりました。また、モノづくりの高品質化や新製品の開発にも力を注ぎ、市場競争力の強化に向けたゆみない努力を続けてきました。

以上の結果、当連結会計年度は過去最高の実績を上げた前年度には及びませんでした。連結売上高は15,067百万円（前期比2.1%減）となりました。また利益面は、経常利益1,398百万円（前期比14.8%減）、当期純利益874百万円（前期比15.0%減）となっております。

## Q 当期における主力3事業の概況は？

## A 生産面の革新と収益基盤の確立に努めました。

### 【猟銃事業】

ミロク製作所を中心とした猟銃事業は、原油価格の高騰などにより購買意欲が停滞し、主力となる米国市場の需要が冷え込みました。さらに、ロシアやトルコなど新興国の台頭や、新製品投入の端境期にあることも影響し、散弾銃・ライフル銃ともに販売数量は前年度実績を下回りました。

このような厳しい状況に対処するため、従来の常識にとらわれない生産革新活動「MPI-30」の実施に着手。あらゆる無駄を排除して工数や材料費などの削減に努めると同時に、付加価値の向上と業務の改善に取り組んでまいりました。

また、銃づくりの重要な工程を支える「匠の技」伝承にも計画的に取り組み、MIROKUブランドの強みを次の世代へ引き継ぐことに努めました。

### 【工作機械事業】

ミロク機械が推進する工作機械事業は、好調を維持する自動車・金型関連業界を中心に、ガンドリルマシンの販売が順調な伸びを示しました。海外展開にも意欲的に取り組み、東南アジアと中国を中心に販売ルートの拡大に注力。中国には中国語が堪能な営業担当を派遣し、日系企業のみならず現地企業へのセールスも積極的に推し進めました。

機械本体だけでなく、消耗品であるツール類の製造販売や、ガンドリルマシンによる請負加工も順調に推移しました。これによって、機械・ツール・加工の3本柱が確立し、景気の波に影響を受けにくい収益構造を構築できました。

### 【自動車関連事業】

ミロクテクノウッド（持分法適用関連会社）による自動車関連事業は、強まる高級志向によって前年の好調を維持しました。主力の純木製ステアリングハンドルのみならず、シフトノブを採用する車種も増え、売上増大につながりました。

また、事業のパートナーである東海理化グループを通じて、トヨタ生産方式の導入ならびにトヨタイズムの浸透が進み、生産性がより一層向上いたしました。



**Q** 来期の展望をお聞かせください。

**A** 生産性の向上と新製品の開発を鋭意推進します。

猟銃事業に関しては、来期も原油高による米国市場の停滞が予測されます。購買意欲の活性化を促す切り札として、平成19年の後半に新製品の市場投入を行う予定です。従って、来期の収益への寄与は限られたものになります。このような厳しい状況を打開するため、より徹底したコストダウンを実施し、競争力ある製品づくりを推進していく所存です。具体的な施策としては、生産革新活動「MPI-30」の全面展開、さらに高知テクノパークに建設する新工場への部品製造拠点の集約などが挙げられます。

厳しい市場環境が予測される猟銃事業をカバーすべく、来期も好調が期待される工作機械事業ならびに自動車関連事業の事業基盤強化にも、力を注いでいく所存です。工作

**Q** 株主の皆様へメッセージをお願いします。

**A** グループの総力を結集し、株主の皆様への還元を着実に高めます。

米国市場で苦戦が予想される猟銃事業の影響を受け、来期も決して容易な年にはならないと覚悟しております。工作機械事業と自動車関連事業をより一層伸長させることによって、グループ全体の収益を補完し、厳しい状況を乗り越えていく所存です。

猟銃事業に関しては、平成19年後半に新製品の市場投入を予定しております。その効果が本格的に収益面に寄与する来々期が、事業巻き返しのスタートになるでしょう。来期は、そのための環境を整備する期間として、



機械事業においては、ツール工場と定盤製造工場を増設し、受注拡大を可能にする生産体制の確立を目指します。また、自動車関連事業では、より一層の生産性向上に挑むと同時に、今までにない機能性と意匠性をもった製品の開発に取り組み、採用車種の拡大に向けたプレゼンテーションを積極的に行ってまいります。

徹底した生産体制の体質強化を推し進めてまいります。

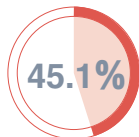
新事業の開拓に関しましても、グループの強みである木工加工技術などをいかして“明日のメシの種”の模索を続けております。

今後ともグループの総力を結集して、株主の皆様へのリターンを着実に高めていく所存ですので、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

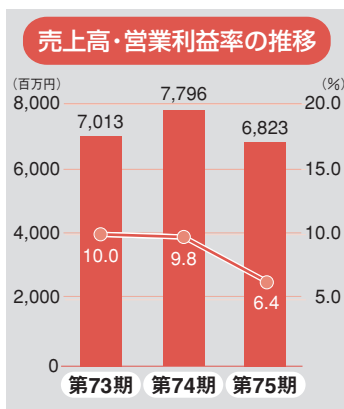
## 猟銃事業

売上高 **6,823**百万円

売上高構成比



■ 売上高(百万円) —●— 営業利益率(%)



猟銃事業におきましては、主力となる米国市場での苦戦がひびき、受注が減少しました。

その結果、売上高は6,823百万円（前期比12.5%減）、営業利益は439百万円（前期比42.4%減）となりました。

猟銃事業は成熟産業ゆえ、来期も市場全体の大きな成長は望み難いものがあります。

また、新興国の台頭によって、価格競争も激化することが予想されます。こうした状況を打破するため、最大の強みである「匠の技」を織り込んだ高品質・高付加価値製品の創出に努め、ブランドイメージの向上に取り組みます。そして、購買意欲を刺激する新製品の開発とタイムリーな市場投入を推進します。さらに、グループ丸となった継続的改善活動を展開し、原価低減による価格競争力の強化に力を注ぐ所存です。

## 事業紹介

### ショットガン

ミロク製作所が米国ブローニング社と提携してOEM生産する猟銃は、『BROWNING』のブランドを冠して、世界の市場に送り出されます。ショットガン（散弾銃）は、単発から上下二連、ポンプアクションまでラインナップタイプも豊富。なかでも上下二連式のショットガンは、高級クラスのカテゴリーでは米国国内で40%のシェアを占めるヒット商品です。日本国内向けには、自社ブランド『B.C.MIROKU』の名で販売されています。



Citori



Cynergy



BPS

### ライフル

ブローニング社と提携して最初に量産を開始したのが、22口径のレバーアクションライフル銃でした。現在もレバーアクションならびにボルトアクションのライフル銃を製造しています。『BROWNING』ブランドだけでなく、世界的ブランド『WINCHESTER』が誇る19世紀後期のライフル銃を、ミロクの技術によって現代に蘇らせました。西部開拓時代のスピリットを受け継ぐ名品として、高い評価を受けています。



A-BOLT



BLR

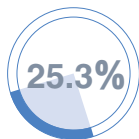


MODEL 1885

### 工作機械事業

売上高 **3,824**百万円

売上高構成比



■ 売上高(百万円) —●— 営業利益率(%)

売上高・営業利益率の推移



工作機械事業は、好調な自動車・金型関連業界からの受注が堅調に推移し、またIT関連メーカーや薄型ディスプレイなどの受注が増大し、機械部門・ツール部門・加工部門ともに増収となりました。

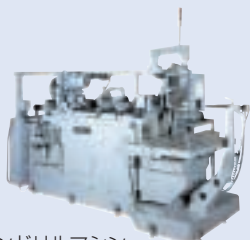
その結果、売上高は3,824百万円（前期比10.3%増）、営業利益は871百万円（前期比19.1%増）となりました。

来期は、ツール工場の増改築と定盤工場の新設によって、安定した収益が見込める消耗品の増産体制を整えます。これにより、加工部門を含めた販売強化を推し進め、受注の拡大に努める所存です。また、機械部門は、国内市場から海外市場への転換を図り、日系企業を中心とした需要獲得に取り組むことで、さらなる飛躍を目指してまいります。

### 事業紹介

#### 機械部門

金属などに深い孔を真っ直ぐにあけるガンドリルマシンを自社で商品化し、自動車関連業界や金型業界などの精密な孔加工を必要とする企業へ納入。北米や東南アジアなどの世界市場にも進出しています。また、半導体業界などへは精密研磨を行うラッピングマシンを供給しています。



ガンドリルマシン



ラッピングマシン

#### ツール部門

ガンドリルマシン用の各種ドリル類、ラッピングマシン用の各種定盤やラッピングパウダー類といった消耗品の販売を行っています。また、ドリルやリーマ、ロータリーバーといった一般的な超硬切削工具も販売しています。



ガンドリル

#### 加工部門

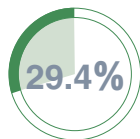
自社のガンドリルマシンを使った孔あけ加工を請け負っています。相模原、柏、名古屋にある4工場において、高精度・高能率、そしてコストパフォーマンスに優れた深孔加工と、孔加工に付随する全加工に対応します。



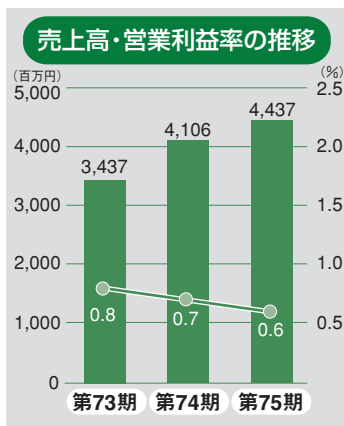
## 自動車関連事業

売上高 **4,437**百万円

売上高構成比



■ 売上高(百万円) —●— 営業利益率(%)



自動車業界は引き続き好調で、自動車関連事業も順調に推移しました。主力の純木製ステアリングハンドルが前年の水準を維持したほか、木目調ステアリングハンドルは前年比25.1%増、シフトノブは前年比41.8%の増収となりました。

その結果、売上高は4,437百万円（前期比8.1%増）、営業利益は26百万円（前期比2.6%減）となりました。

来期も、自動車関連事業の命題である売上の成長を目指し、トヨタ生産方式の本格的展開による継続的改善と木材調達の改善などに取り組んでまいります。さらに、純木製ステアリングハンドルの曲げ加工を検討するなど、新たな製造技術の導入と意匠性の追求も積極的に推し進める所存です。

## 事業紹介

### 純木製ステアリングハンドル



ウォールネット(くるみ)製



メイプル(かえで)製

猟銃製造から派生した木工技術が認められ、ミロク製品がトヨタ自動車に純木製ステアリングハンドルとして採用されました。世界最高水準のさまざまな規格テストに合格し、量産体制も確立。独自の技術により、フィンガーアシストなどの3次元曲面も自由に造形することが可能です。



### 自動車内装用木工パーツ

トヨタ自動車との関わりは1997年までさかのぼります。長年培ってきた木工技術をベースに、ひとつとして同じものがない自然素材を使い、可能な限り均質な工業製品を作る生産体制を実現。自動車用シフトノブやレバーコンビネーションスイッチなどで高い評価を得るに至りました。



シフトノブ



レバーコンビネーションスイッチ



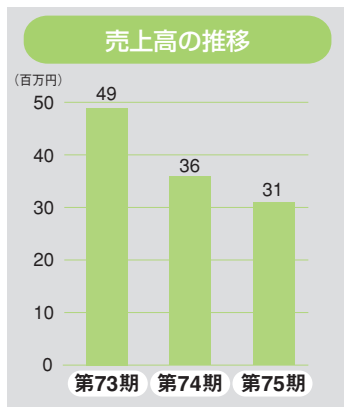
### その他事業

売上高 31百万円

売上高構成比



■ 売上高(百万円)



銃づくりの含浸技術を屋外建築用木材に応用したミロモックル事業は、公共投資の削減により厳しい状況が続きました。

その結果、売上高は31百万円（前期比14.0%減）、営業損失は9百万円となりました。

今後は、一般住宅関連などの民需部門への転用を図るなどの対策を練ってまいります。

### 事業紹介

#### ミロモックル事業

薬剤を木材に浸透・熱硬化させることにより、狂いや腐食を防止する含浸技術。猟銃用木材の耐候性研究から生まれたこの技術を屋外建築用木材に応用し、自然素材の風合いをいかしたまま、長期的に維持することを可能にしたのが「ミロモックル製品」です。環境や人体に無害な薬剤を使用し、地球環境に配慮した休憩施設や、心やすらぐ「めくもりの広場」などで幅広く親しまれています。今後は、一般住宅の基礎部分やテラス・デッキなどへの応用など、建築分野での展開に期待が高まっています。



京都府長岡京市／八条ヶ池



広島県豊田郡本郷町／中央森林公園・三景園

### Topics トピックス

#### 着々と進行する生産拠点の拡充

工作機械事業のさらなる基盤強化のため、ツール工場の増改築と定盤工場の新設を進めています。ガンドリルマシンのツール類は需要が増大し、現状の生産施設規模では今後の能力増強が困難と判断。ツール工場の工場建屋1棟を改築し、最大生産能力を従来の1.7倍に高めます。さらにラッピングマシンの消耗品である定盤の増産体制を整備するため、専有工場の新設に着手。完成後の生産能力は従来の3倍に高まります。また、猟銃事業の生産効率向上に向け、高知工科大学との連携を図る高知テクノパークに工場を新設。部品の内製化を推進します。



ツール工場  
(完成予想図)

# Close Up 特集

## ミロク製作所が「元気なモノ作り中小企業300社」に!

平成18年4月11日に経済産業省が公表した「元気なモノ作り中小企業300社」に、ミロク製作所が選ばれました。今回の特集では、どのような点が評価されたのかを紹介します。

### 高知県から唯一選出

「元気なモノ作り中小企業300社」には、全国の経済産業局、中小企業基盤整備機構、商工組合中央金庫および中小企業金融公庫が集めた情報をもとに、全国で活躍する独自の高い技術を持つ中小企業が選ばれています。選考の基準には、企業の持つ技術力の高さはもちろん、その技術が国民生活や社会活動に与える影響の大きさ、国際貢献度なども加わりました。

日本の明日を支えるモノづくりを担う中小企業の代表として、高知県の企業から選ばれたのは、ミロク製作所だけです。



### 「匠の技」と最新技術の融合

ミロク製作所が選出された理由は、高度な職人技で世界最高品質の猟銃を製造していること。寸分の狂いも許されない高度な加工技術が要求される猟銃の世界で、長年にわたって国内トップを射抜き、今や世界に名だたる企業へ躍進した実績が評価されたのです。

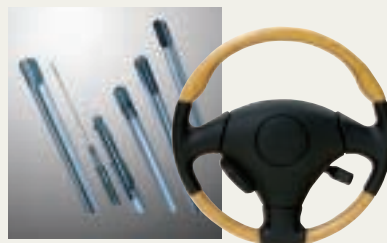
なかでも注目されたのが、「匠の技」と最新工業技術との融合です。銃身とレシーバーの接合面を、ミクロン単位の精度でピッタリと合わせる「ゼロ嵌合」を可能にした職人技。このような「匠の技」をいかした最新の生産システムによって、世界トップレベルの製品を量産しているのがミロク製作所の強みです。



平成17年に「現代の名工」を受章した  
ミロク製作所の前川裕

### 独自技術の応用展開も評価

昭和26年に日本で初めて猟銃の量産に成功して以来、弛みなく錬磨を続けた猟銃づくりの技術。それを応用展開し、ミロクグループによる事業の多角化を積極的に行っていることも評価の対象になりました。銃身加工技術から誕生した小径精密深孔加工ができるガンドリルマシン、木工技術を応用した純木製ステアリングハンドルなど、独自の技術を核としてモノづくりの可能性を広げていく取り組みが、中小企業のあるべき姿として認められたのです。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度末 (平成18年10月31日)	前連結会計年度末 (平成17年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,392,730</b>	<b>6,266,567</b>
現金及び預金	925,882	937,520
受取手形及び売掛金	2,936,266	2,744,445
たな卸資産	2,203,975	2,335,592
繰延税金資産	120,443	89,691
その他	229,814	181,051
貸倒引当金	△23,651	△21,733
<b>固定資産</b>	<b>8,763,902</b>	<b>7,846,212</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,915,438</b>	<b>4,288,887</b>
建物及び構築物	1,112,777	1,065,028
機械装置及び運搬具	1,862,642	1,922,421
土地	1,568,547	1,105,188
建設仮勘定	215,719	18,500
その他	155,751	177,747
<b>無形固定資産</b>	<b>91,038</b>	<b>108,163</b>
のれん	7,392	—
連結調整勘定	—	15,248
その他	83,645	92,914
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,757,425</b>	<b>3,449,161</b>
投資有価証券	2,631,239	2,339,753
繰延税金資産	382,152	332,893
その他	943,215	968,386
貸倒引当金	△199,182	△191,872
<b>資産合計</b>	<b>15,156,632</b>	<b>14,112,780</b>

(単位:千円)

科目	当連結会計年度末 (平成18年10月31日)	前連結会計年度末 (平成17年10月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>5,533,500</b>	<b>5,036,681</b>
支払手形及び買掛金	2,249,675	2,100,390
短期借入金	1,800,000	1,800,000
1年以内償還予定の社債	300,000	—
未払法人税等	261,581	341,447
繰延税金負債	1,313	1,322
賞与引当金	132,546	120,847
役員賞与引当金	53,900	—
その他	734,483	672,673
<b>固定負債</b>	<b>2,333,507</b>	<b>2,527,315</b>
社債	200,000	500,000
長期借入金	800,000	800,000
繰延税金負債	241,297	202,935
退職給付引当金	730,902	625,509
役員退職慰労引当金	359,194	392,882
負ののれん	2,113	—
連結調整勘定	—	5,988
<b>負債合計</b>	<b>7,867,008</b>	<b>7,563,996</b>
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	—	11,087
<b>資本の部</b>		
資本金	—	863,126
資本剰余金	—	519,267
利益剰余金	—	4,914,469
株式等評価差額金	—	302,945
為替換算調整勘定	—	181
自己株式	—	△62,294
<b>資本合計</b>	—	<b>6,537,696</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	—	<b>14,112,780</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>6,909,973</b>	—
資本金	863,126	—
資本剰余金	519,289	—
利益剰余金	5,595,987	—
自己株式	△68,429	—
<b>評価・換算差額等</b>	<b>368,653</b>	—
その他有価証券評価差額金	369,280	—
為替換算調整勘定	△626	—
<b>少数株主持分</b>	<b>10,996</b>	—
<b>純資産合計</b>	<b>7,289,624</b>	—
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>15,156,632</b>	—

# Consolidated Financial Statements

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)	(自 平成16年11月1日 至 平成17年10月31日)
売上高	15,067,601	15,396,659
売上原価	12,285,445	12,429,449
売上総利益	2,782,156	2,967,210
販売費及び一般管理費	1,658,376	1,605,362
営業利益	1,123,780	1,361,847
営業外収益	317,217	323,551
受取配当金	23,821	17,619
持分法による投資利益	218,721	247,822
連結調整勘定償却額	—	3,875
負ののれん償却額	3,875	—
その他	70,799	54,234
営業外費用	42,346	43,870
支払利息	33,408	36,068
賃貸費用	6,136	—
その他	2,802	7,801
経常利益	1,398,650	1,641,529
特別利益	40,583	12,999
貸倒引当金戻入益	10,583	12,999
保険解約差益金	30,000	—
特別損失	53,658	44,331
固定資産除却損	14,264	11,207
減損損失	7,369	—
棚卸資産処分損	6,373	12,649
火災損失	—	18,498
入会金評価損	14,180	—
ゴルフ会員権評価損	9,550	—
その他	1,921	1,975
税金等調整前当期純利益	1,385,576	1,610,197
法人税、住民税及び事業税	590,189	653,564
法人税等調整額	△78,898	△71,909
少数株主利益	97	96
当期純利益	874,187	1,028,445

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)	(自 平成16年11月1日 至 平成17年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,224,378	1,732,763
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,070,548	△1,025,974
財務活動によるキャッシュ・フロー	△165,720	△309,033
現金及び現金同等物に係る換算差額	253	975
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	△11,637	398,730
現金及び現金同等物の期首残高	937,520	538,789
現金及び現金同等物の期末残高	925,882	937,520

## 連結株主資本等変動計算書 (自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成17年10月31日残高	863,126	519,267	4,914,469	△62,294	6,234,569	302,945	181	303,126	11,087	6,548,783
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△126,014		△126,014			—		△126,014
役員賞与の支給			△62,470		△62,470			—		△62,470
監査役賞与の支給			△4,185		△4,185			—		△4,185
当期純利益			874,187		874,187			—		874,187
自己株式の取得				△6,142	△6,142			—		△6,142
自己株式の処分		22		6	29			—		29
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						66,335	△808	65,527	△90	65,436
連結会計年度中の変動額合計	—	22	681,517	△6,135	675,404	66,335	△808	65,527	△90	740,841
平成18年10月31日残高	863,126	519,289	5,595,987	△68,429	6,909,973	369,280	△626	368,653	10,996	7,289,624

# 単体財務諸表

# Non-Consolidated Financial Statements

## 貸借対照表

(単位:千円)

科目	当事業年度末 (平成18年10月31日)	前事業年度末 (平成17年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,466,623	2,496,985
固定資産	5,727,112	5,269,050
有形固定資産	1,751,118	1,158,319
無形固定資産	1,498	2,278
投資その他の資産	3,974,495	4,108,452
<b>資産合計</b>	<b>8,193,736</b>	<b>7,766,036</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,248,423	1,831,582
固定負債	1,452,634	1,722,690
<b>負債合計</b>	<b>3,701,058</b>	<b>3,554,273</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	—	863,126
資本剰余金	—	531,268
利益剰余金	—	2,552,493
株式等評価差額金	—	299,331
自己株式	—	△34,456
<b>資本合計</b>	—	<b>4,211,762</b>
<b>負債及び資本合計</b>	—	<b>7,766,036</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>4,134,177</b>	—
資本金	863,126	—
資本剰余金	531,290	—
利益剰余金	2,780,352	—
自己株式	△40,592	—
評価・換算差額等	<b>358,500</b>	—
その他有価証券評価差額金	358,500	—
<b>純資産合計</b>	<b>4,492,677</b>	—
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>8,193,736</b>	—

## 損益計算書

(単位:千円)

科目	当事業年度 (自平成17年11月1日 至平成18年10月31日)	前事業年度 (自平成16年11月1日 至平成17年10月31日)
営業収益	<b>716,624</b>	<b>655,128</b>
営業費用	322,604	293,619
<b>営業利益</b>	<b>394,019</b>	<b>361,508</b>
営業外収益	93,708	73,010
営業外費用	34,417	39,161
<b>経常利益</b>	<b>453,311</b>	<b>395,358</b>
特別利益	—	301
特別損失	27,398	2,837
<b>税引前当期純利益</b>	<b>425,912</b>	<b>392,821</b>
法人税、住民税及び事業税	39,045	43,597
法人税等調整額	△1,006	△15,771
<b>当期純利益</b>	<b>387,873</b>	<b>364,995</b>
前期繰越利益	—	277,251
中間配当額	—	59,322
<b>当期末処分利益</b>	—	<b>582,925</b>

## 株主資本等変動計算書

(自平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算 差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成17年10月31日残高	863,126	531,268	2,552,493	△34,456	3,912,431	299,331	4,211,762
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△126,014		△126,014		△126,014
役員賞与の支給			△31,000		△31,000		△31,000
監査役賞与の支給			△3,000		△3,000		△3,000
当期純利益			387,873		387,873		387,873
自己株式の取得				△6,142	△6,142		△6,142
自己株式の処分		22		6	29		29
固定資産圧縮積立金の取崩(当期分)					—		—
固定資産圧縮積立金の取崩(前期分)					—		—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)					—	59,169	59,169
事業年度中の変動額合計	—	22	227,859	△6,135	221,745	59,169	280,914
平成18年10月31日残高	863,126	531,290	2,780,352	△40,592	4,134,177	358,500	4,492,677

### 会社概要

(平成18年10月31日現在)

社名	株式会社ミロク Miroku Corporation
所在地	高知県南国市篠原537番地1 1946 (昭和21) 年7月5日 2003 (平成15) 年5月1日持株会社化
資本金	863,126千円
従業員数	551名 (連結対象子会社含む)
事業内容	<p><b>猟銃事業</b> 猟銃の製造および販売</p> <p><b>工作機械事業</b> 深孔加工機等工作機械・工具の製造および販売</p> <p><b>自動車関連事業</b> 自動車用部品の製造および販売</p> <p><b>その他事業</b> 木工製品の加工および販売</p>

### 役員

(平成19年1月26日現在)

代表取締役社長	弥 勒 美 彦	取 締 役	堀 川 洋 幸
代表取締役専務	田 中 勝 久	取 締 役	ジャン・ピエール・ワルマック
取 締 役	四 手 井 洋 一	常 勤 監 査 役	深 見 裕 夫
取 締 役	荒 井 瑞 夫	監 査 役	山 本 吾 一
取 締 役	チャールズ・グブラumont	監 査 役	加 藤 康 彦
取 締 役	近 藤 久 視	監 査 役	大 西 俊 郎

### 連結子会社

(平成18年10月31日現在)

株式会社ミロク製作所  
株式会社ミロク精工  
株式会社香北ミロク  
株式会社梶原ミロク  
ミロク機械株式会社  
MIROKU MACHINE TOOL, INC.  
株式会社馬路ミロク

### 関連会社

株式会社ミロク工芸  
ニッサンミロク株式会社  
株式会社ミロクテクノウッド  
T&M USA INC.  
株式会社特殊製鋼所  
株式会社ミロク興産

### ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃づくりの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧ください。

**URL** <http://www.miroku-jp.com/>



# 株式情報

(平成18年10月31日現在)

## 株式の状況

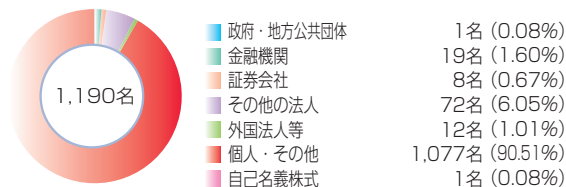
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,027,209株
株主数	1,190名

## 大株主 (上位10名)

	持株数(千株)	出資比率(%)
ブローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村證券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
ミロク共栄会	510	3.4
日本油脂株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0
日本生命保険相互会社	444	3.0

## 株式分布状況

### 所有者別株主数



### 所有者別株式数



# 株主メモ

事業年度…………… 毎年11月1日から翌年10月31日まで

基準日…………… 定時株主総会 10月31日  
剰余金の配当 期末 10月31日  
中間 4月30日

株主名簿管理人…………… 〒100-0005  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所…………… 〒541-8502  
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(フリーダイヤル)

同取次所…………… 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法…………… 電子公告の方法により行います。  
ただし、やむを得ない事由により電子公告を  
することができない場合は、日本経済新聞に  
掲載します。  
電子公告掲載URL  
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数…………… 1,000株

証券コード…………… 7983

■株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行  
の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル)  
0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>



株式会社ミロク 高知県南国市篠原537番地1  
TEL:088-863-3310



この冊子は、環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙と大豆油墨を使用しております。